

今何が起ろうとしているのか

気候変動についての学習会(第2回)

6月22日 7pm~9pm 中央公民館

「この頃の天気はどうかしちゃったね。変に熱いかと思うと、厚着したくなるほど寒くなる。雨風の激しさも尋常じゃないよ。」生命の星と言われる地球がどうなってしまうのか？それほど遠くはない過去、まだ舗装もあまり進んでいなかった道路を走る車も多くはなく、スーパーで冬にもスイカが買えるようなこともなかったとき、四季には折々の鳥や花が見られ、貧しくても美味しい旬の食べ物が野山や近くの川で手に入った。足ることを知る生き方が、まだあった。必要なだけのものを有り難くいただき、大切に使って、お返しをするということが、当たり前だった。今、世界の各地で数億の人々が飢えている一方では、値上がりする穀物を投機の対象として、富みに富を重ねようとする人々がいます。足ることを忘れた人々は、奪えば奪うほど欲が募り、地球が数億年かけて貯めてきたエネルギーを数百年で使い切るような勢いで大量消費と大量廃棄の「文明」の道をひた走っています。廃棄物のなかでも、一番無害と思われた二酸化炭素などの温室効果ガスが、「文明」の中軸となってきた電力、鉄鋼、セメント産業を初めとする諸産業から排出され、「文明」から最も遠い野生生物、世界各地でまだ自然と共に生きている人々を真っ先に犠牲者にしていきます。生命の星を成り立たせてきた多様な生物のつながりが、あちこちで絶たれ初めています。気候変動は、単に「温暖化」にとどまらず、生命のシステムそのものの基盤を危うくしています。

第1回学習会（4月19日）では、食の問題を取り上げました。経済効率第1主義のやりかたを、いのちを育むための食べ物の生産・消費という本来のものへ戻すことなしに、温暖化対策はあり得ないという話しがされました。（第1回報告を作りました。）

今回は、2007年11月に発表された国連の機関IPCC（気候変動に関する政府間パネル）による第4次報告書の「政策決定者向け要約」などに基づき、気候変動について今科学者達の間で知られていることを学びたいと思います。科学の目で捉えられることには限界がありますが、今起ろうとしていることの大枠についてクールにおさえておくことから始めるしかありません。その中から、これからの方向について、私たちが何をしたらよいか、いろいろな立場からの意見をつきあわせながら考えて行きたいと思います。

主催：嵐山町 大気と水と大地の会 連絡先：弥永健一 電話：090-8024-7151